

平成 28 年度 学校法人 三幸学園 札幌ビューティーアート専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者:副校長 小高 政利

学校関係者評価報告責任者:学校関係者評価委員長 富田 佳代

1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和60年の開校以来約30年にわたり、『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため日々研究・研鑽を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳、「三幸学園の原点 あきらめない教育」に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「ビジョンミーティング」、「サマーセミナー」においては、学園長及び理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、各姉妹校で行われる年3回の全体会議にて共有化を図っているものである。また、学生に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「成功の法則」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①前年度重点施策振り返り

- ・退学率の低減
- ・社会に適合できる、必要とされる人材を育てる
 - (1)基礎指導の徹底(あいさつ・返事・言葉づかい・時間管理・体調管理・笑顔・清掃)
 - (2)主体性の育成
 - (3)資格取得
 - (4)技術の向上

⇒以上を達成するために、「担任教員と教科担当教員の情報共有を密にしていくこと」「産学連携の強化」に取り組んでいく。

②学校関係者評価委員会コメント

- ・企業側としても、若手人材に求めるものは技術的なものよりも、社会人基礎力などを重視している為、そういった教育に力を入れている点が評価できる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

教育理念、目指す人物像共に教職員・生徒・保護者への浸透が十分とは言えないため、さらに発信していく必要がある。

② 今後の改善方策

年度末年始の会議だけでの説明ではなく、定期的に行っている担任会議やクラス会議、教科会議等でも学校の理念・目的・育成人材像について浸透するための時間を設ける。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価コメント

- ・育成人材像について、明確に掲示等により学生に周知されていて判りやすい
- ・雇用形態、経験年数に関わらず、全ての教職員が教育理念を理解していることが理想である
- ・新たなコースの設置等、社会のニーズに対して迅速に対応出来ている

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4

教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・平成27年度より教職員向けのポータルサイトが立ち上がり、サイト上で規定及び発信文書の管理が行われる様になっているが、教職員の活用状況が十分ではない。

② 今後の改善方策

・現状上手くサイトの活用が出来ている職員をピックアップし、操作方法の開設、事例共有等の研修を実施する。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価コメント

- ・学校運営が適切に行われていると感じる
- ・更なる業務の効率化を行うことにより、教職員の業務負担軽減に繋げてほしい
- ・引き続きコンプライアンス体制を整備して欲しい

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4

成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・資格取得のための指導体制について、カリキュラムの中での体系的な位置づけが不明瞭であった為、生徒の資格取得へのモチベーションを十分に高めることが出来なかった

② 今後の改善方策

・1、特に強く取得を促す資格の明確化、2、補講等集中強化期間のバックアップ体制の見直しを行い、資格取得の為の指導体制を強化していく

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価コメント

・「何のために資格を取得するのか」「取得した資格を生かして何をしたいのか」という様なことを継続して生徒に伝えてみてはどうか

・多くの授業に企業が関わっており、実践的な教育に繋がっている

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

--	--

① 課題

・卒業生とのコミュニケーションが上手く取れていない為、WEB 上に卒業生同窓会サイトを立ち上げ、運用しているが、卒業生からの認知度が低く、活用しきれていない

② 今後の改善方策

・学校のHPやSNSを活用し同窓会サイトの存在を周知し、利用を促進する。また、卒業式前のHRにて全ての卒業予定者に同窓会サイトのリーフレットを配布し、周知を徹底する

③ 特記事項

④ 学校関係者評価コメント

・「何のために資格を取得するのか」「取得した資格を生かして何をしたいのか」という様なことを継続して生徒に伝えてみてはどうか

・多くの授業に企業が関わっており、実践的な教育に繋がっている

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3

① 課題

・卒業生とのコミュニケーションツールとして卒業生同窓会サイトがあるが、卒業生からの認知度が低く活用しきれしていない。

・健康状態、既往歴の把握がされにくい。

① 今後の改善方策

・学校のHPやSNSを活用し、サイトの存在を周知し利用を促進する。

・平成29年度より問診票のヒアリング項目を変更し、より効率的に生徒の健康状態等を把握する。

② 特記事項

特になし。

③ 学校関係者評価コメント

・担任教員が生徒1人1人と密に関わり指導を行っている点が評価できる

・課外活動を積極的に行っていることが、生徒の職業観醸成に役立っていると感じる

・卒業生向けのセミナー等がより盛んに行われるとよい

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・設備の老朽化が進んでいるため、冷暖房等の故障が頻発している。

② 今後の改善方策

・事前点検をしっかりと行い、修繕箇所を早めに見つけ対応していく。

③ 特記事項

・平成30年4月より新校舎を建設し、移転する予定。

④ 学校関係者評価コメント

・防災に対する体制をより強化するべき

・学外での実習に力を入れている点が評価できる

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4

学納金は妥当なものとなっているか	4
------------------	---

① 課題

・募集活動は適正に行い、資格取得率、就職率等、パンフレットで伝えているため、課題は特にないと考えている。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価コメント

・オープンキャンパス等を積極的に行っており、参加者のニーズに合わせた進路選択の機会が多く設けられていると感じる。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方法

【中期計画】

今年度に新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価コメント

特になし。

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・更なる法令遵守を徹底していく

② 今後の改善方策

・全体で集まる会議や配布物を通して、関わる全ての教職員へ継続して啓蒙していく

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価コメント

・自己評価の結果について、このような場を設けて改善に努めている点が評価できる。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・地域に対しての働きかけが薄い。
- ・教育訓練の受託はしているが、希望者が出ていない。

① 今後の改善方策

- ・地域貢献のために、何ができるのかを検討し、実践する。

② 特記事項

本校では地域への貢献策として、生徒へのボランティア活動への参加を積極的に促しており、多くの生徒が参加している。

〈事例〉

- ・東急百貨店における、学生サロンの設置運営
 - ・アリオ札幌店における、
 - ・小学生対象の職業体験イベント @アクセスサッポロ
- 等、他にも多数実施。

③ 学校関係者評価コメント

- ・このような機会を学生に多く提供できている点が高く評価できる
- ・今後も積極的にこういった活動を継続するべき

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・年度当初に掲げた、「退学率の低減」「社会に適合できる、必要とされる人材を育てる」という目標に対して、十分な成果は上げることが出来なかった。また、全卒業生から回収している「卒業生アンケート」の結果を分析すると、学校側が考え取り組んでいる 各種改善・解決策と、生徒が望んでいるもの間に若干の隔たりがある様に感じられる。

今後は、学校関係者や業界の方々、卒業生や保護者、在校生の意見を吸い上げる機会を多く設け、学校側が考える教育上の課題と、周りの方々が感じる課題との間にあるギャップを極力無くし、よりよい教育活動を行える様、努めていきたい。